

マーケット概況（2025年5月）

5月の債券相場は、米国政権の関税政策による景気減速懸念から買いが先行し、10年378回債は1.300%で取引を開始した。1日に行われた日銀金融政策決定会合とあわせて公表された展望レポートで、2025年度と2026年度のGDP成長率とCPI上昇率の見通しが下方修正されると、10年378回債の利回りは1.260%まで低下した。しかし、7日の残存25年超の国債買入オペの結果の内容が弱めであったことや、8日の10年債入札が軟調な結果になると売りが優勢となった。さらに、米中両政府が互いの関税率の大幅な引き下げに合意したと報じられると、リスクオフの巻き戻しから下げ幅を拡大した。13日に行われた30年債入札が強い結果となり買い戻しも入ったが、ムーディーズが米国の信用格付けを最上位から引き下げ米国債が売られたことに加え、20日の20年債入札でテールが1円14銭と1987年9月入札以来の水準まで流れると、超長期債を中心に大きく売られた。30年86回債は3.185%、40年17回債は3.675%とカレントとして発行以来の最高利回りを記録し、10年378回債の利回りも1.570%まで上昇した。しかし、財務省が複数金融機関に国債発行額に関するアンケート調査を実施するとの報道から超長期債の発行減額観測が浮上し、月末にかけイールドカーブのベアスティーブが和らいだ。結局、10年378回債は1.500%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、足元金利対比での割高感が意識され、2日の3M1303回債入札で前月比3.0bp程度上昇の最高落札利回り0.4249%となったが、0.40%台での店頭需要は強く、入札後は0.390%まで取引された。8日の6M1304回債入札も最高落札利回り0.4462%と前月比2.3bp程度金利上昇したが需要はしっかりで、その後の入札も3M1305回債が0.4090%、3M1306回債が0.3793%と金利低下となった。1Y1307回債入札も最高落札利回り0.5783%と前月比では3.3bp程度金利上昇だったが、概ね事前予想よりもしっかりと決まり、需給環境は良好だった。しかし、下旬にかけては中期債の利回り上昇につられ、1Y周辺が売り優勢となると、3M・6Mゾーンも次第にオファーが増え、その後の入札では3M1308回債が0.3934%、3M1309回債が0.4276%と金利上昇傾向となった。

<一般債市場>

5月の定例地方債は、5年債が前月比6bpワイド化、10年債が前月比5bpワイド化となる国債カーブ対比+20bpの条件決定となった。10年定例政保債は国債カーブ対比+18bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。投資家目線に合わせた条件決定や金利水準の上昇により、地方債カレント債を中心に需給が良好な状況が続いた。5月の事業会社債の発行額は、前月に相場変動により見送られていた東京電力PGやサントリーHDが発行を再開したことや、ソフトバンクGが単一銘柄としては過去最高の6,000億円のリテール債を発行したことなどが寄与し、過去最高を大幅に更新となる合計1兆7,502億円(50銘柄)となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#378	1.300(1日)	1.260(1日)	1.570(22日)	1.500(30日)
#377	1.280(1日)	1.240(1日)	1.545(23日)	1.475(30日)
#367	1.015(1日)	0.960(2日)	1.250(22日)	1.210(29日)
#178(5Y)	0.870(1日)	0.815(2日)	1.045(28日)	1.015(30日)
#192(20Y)	2.185(1日)	2.175(1日)	2.600(23日)	2.405(30日)
#1298-#1304 TDB(6M)	0.455(8日)	0.380(14日)	0.455(8日)	0.380(14日)
#1302-#1309 TDB(3M)	0.400(1日)	0.355(21日)	0.410(8日)	0.400(30日)